

参考資料
分類名〔水稻〕

参 4	令和5年産水稻種子の発芽の特徴
-----	-----------------

宮城県古川農業試験場

要約

令和5年産の「ひとめぼれ」では発芽試験4日後の発芽率と14日後の発芽率が平年値よりも下回った。「ササニシキ」は4日後の発芽率は前年より劣るが、14日後の発芽率は前年並であった。これらのことが、令和5年産水稻種子は休眠が深まり高温年産種子の特徴として確認された。

普及対象：指導機関
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

水稻種子は、出穂後の高温により休眠が深まると報告があるため、高温年であった令和5年産種子の「ひとめぼれ」と「ササニシキ」を対象に発芽試験を行った。その結果、「ひとめぼれ」では4日後の発芽率と14日後の発芽率が平年を下回り、今後も高温による同様の影響が想定されることから、発芽試験の参考資料とする。

2 参考資料

(1) 令和5年産種子「ひとめぼれ」は、前年値および平年値と比較して4日後の発芽率および14日後の発芽率は低い。「ササニシキ」は、4日後の発芽率は前年より劣るが、14日後の発芽率は前年並である（図1）。

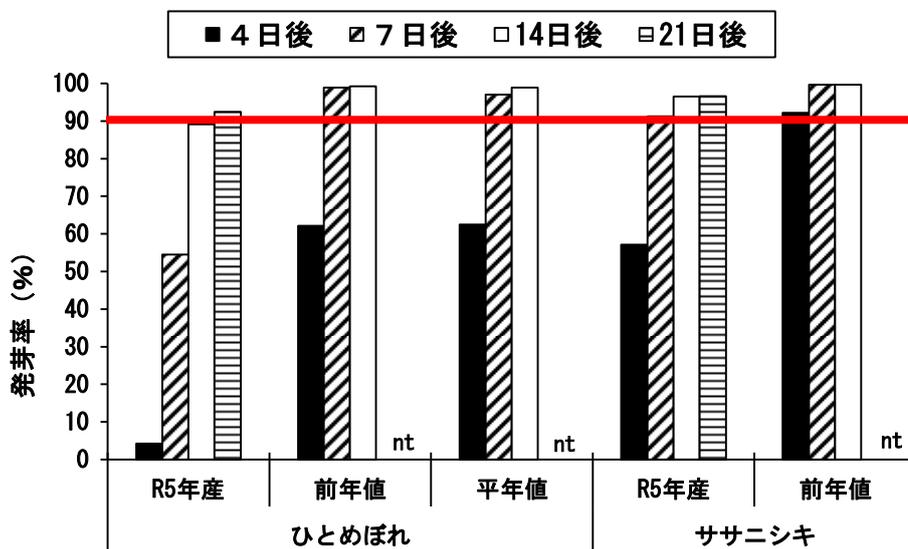


図1 令和5年産種子と過去の発芽率（「ひとめぼれ」「ササニシキ」）

注1) 平年値は平成30～令和4年の平均値

注2) 90%の横線は宮城県主要農作物種子審査要領における生産物審査基準の発芽試験14日後の発芽率最低限度

注3) ntは調査未実施

3 利活用の留意点

(1) 試験方法：

試験に用いた種子は、岩沼産原種種子を古川農業試験場ほ場で試験研究用に採種した種子で、塩水選後に2.2mm篩目で調整した。発芽率の測定と休眠打破処理は、宮城県主要農作物種子審査マニュアルの方法で令和5年11～12月に実施し、令和5年産種子は100粒を21反復、令和4年産種子は100粒を10反復実施した平均値である。

なお、令和6年2月に実施した追加試験においても図1と同様の傾向であった（データ略）。

(2) 高温年産種子の発芽試験を実施する場合は、必ず休眠打破を行う（図2）。

（問い合わせ先：宮城県古川農業試験場 作物栽培部 電話 0229-26-5108）

4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 試験研究課題名及び研究期間

気候変動に対応した「高品質宮城米」安定生産を図るための栽培方法の確立（令和5年度）

(2) 参考データ

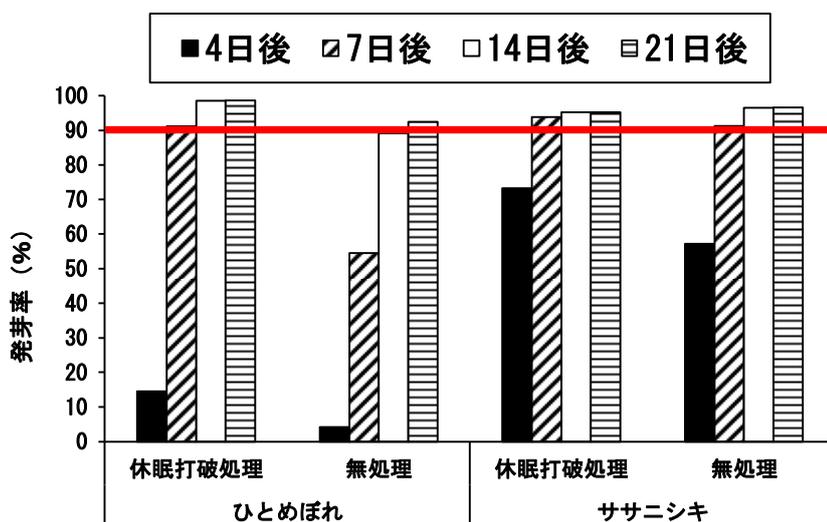


図2 令和5年産種子の休眠打破処理による発芽率
 (令和5年「ひとめぼれ」「ササニシキ」)
 注)90%の横線は宮城県主要農作物種子審査要領における生産物審査基準の発芽試験14日後の発芽率最低限度

(3) 発表論文等

イ 関連する普及に移す技術

(イ) 新品種「ひとめぼれ」の浸種・催芽管理の留意点（第63号参考資料）

(ロ) ひとめぼれ種子の発芽特性（第67号参考資料）

(ハ) 水稻種子の温湯浸漬処理による発芽率の品種間差（第89号参考資料）

ロ その他 なし

(4) 共同研究機関 なし